



2月13日

---



昨日痛飲し、絶対二日酔いになるだろうと思って眠ったが意外にも爽やかな目覚め。カーテンを開くと関東の眩しい朝陽。気持ちいい。昨日の朝の不安が嘘のよう。昨日一緒に飲んでくれた関東の友人たちのおかげだと思う。ありがとう。楽しい夜だった！朝御飯のバイキングに行く。フルーツグラノーラなどにはみむきもせず白米と味噌汁を選ぶ。ああ当分和食が食べられないと思うと悲愴な気分。いつもより気合いをいれて納豆をかきまぜる朝なのだった。



ロビーには実に多種の言語が飛び交う。向かいに腰をおろす女性の肌はコーヒー色。鮮やかなスカーフが異国の色をしている。おもむろに彼女は手にしている紙を破りはじめる。たたんでは破りまた破る。執拗にその紙を粉ごなにしてくのだ。なにかのまじないなのだろうかと私はいぶかしむのだった。彼女がその粉々の紙片をばあっと撒くような気がして一瞬うっとりとする。けれども彼女はそれを大事そうに皮のハンドバッグにしまったのだった。



イタリア文学者の岡本太郎氏が空港はヴァーチャルな空間だと書いていらした。成田の新しいターミナルは確かに演劇性に満ちている。着飾る旅行者がいつきの旅行という舞台を演じるのだ。ベンチの後ろに座る二人の男性がマイレージの数字の話ばかりしている。空を翔ぶと加算されるその不思議な数字について私もしばし思いを巡らす。少し眠い。機内ではうまく眠れない。果てしなく疲れそうなフライト。成田は薄曇り。

2月14日

---



長いフライトを終え、フランクフルト・マイン国際空港へ。あまりにも広い空港に眩暈。通じない英語でなんとか乗り継ぎ手続きを。買ったミネラルウォーターはガス入りだった。ローマについて宿へ移動したら日本時間の早朝。あまりにも長い2月13日。



荒っぽいアリタリア航空の着陸。機内食のクリームチーズのサンドウィッチが胃に重い。機内食のボックスにはあとはクッキーやらチョコやら。甘いものを詰める神経が分からない。空港ではトイレを探して右往左往。タクシー乗り場の客引を振り切って電車乗り場へ。テルミニまでのビリエット、ペルファポーレとかなんとか怪しい言葉を口ごもる。宿はもうすぐ。倒れこむように眠りたい。写真はプラットフォーム。

こちらは真夜中の3時。昨夜昏睡するように眠りに落ちたがもう目が覚めて眠れない。なんと10人部屋に泊まっている。色々な国籍の寝息が響く部屋。日本人の男の子が3人もいるのでいまいち外

国にいる気がしない。もっとも昨夜は疲れてほとんど会話していないが。あとは白人のカップル二組。白人がそうなのかたまたま彼らがそうなのかやたら荷物が多い。あんな巨大なスーツケースで旅をしているのにドミトリーなんて不思議。夜の帳。外からは機械の鳴る音。朝になったらカプチーノを飲み散歩にしよう。もう一眠りできるかな。



もうこれ以上時差で眠れないというわけで朝の街へ。パールに入ってカプチーノを。地元の常連たちが朝から賑やか。みな立飲みでエスプレッソを5秒で飲み干して挨拶をしてでていく。出勤途中なのだろう。私は立飲みカウンターに紛れる勇気がなくて座り飲み。その場合料金が3倍ほどになるのがイタリア。といっても2ユーロ半だった。カプチーノの上にはハートマーク。それで思い出したが今日はバレンタインデー。もう何年誰にもチョコを渡していないか数えはじめると本気で怖くなってきたので中断。店内に少し身なりの汚い男性が入ってきて二人きりである。カウンターのある建物は別棟。ちょっと怖がっていると店主がきて仲良く喋りはじめた。怪しいのは私のほうであるとややうんざり。さっき宿で話した日本人男性が昨日ナポリですられそうになったと言っていたから治安が悪いことに間違いはないのだろうけれども。

昨夜同室の日本人の男の子と朝食。卒業旅行で欧州一周中という彼。そういえば名前も聞いていないな。彼がシエナへ発つのを見送り一旦部屋へ戻る。同室のカップルが怪しい雰囲気だがまあ見られても構わないのだろうと居座る。私も活動開始。駅で明日のバーリまでの切符を買う。ついでに3月にパリへ向かう夜行列車アルテイシアも予約。なんとなく地下鉄に乗ってスペイン広場へ。特にすることもなくまたコーヒー。ローマは快晴。

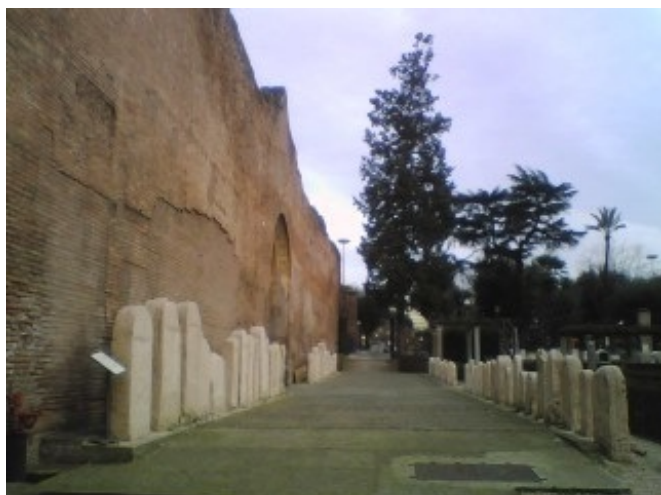


スペイン広場ではシャボン玉を吹く人がいて虹色のボールがふわふわと浮いている。普段田舎に住んでるせいかものごいの貧しい人を見慣れないのでどきっとする。都会はどこもそうだが貧富の差が激しくそのコントラストが怖いし魅力でもある。お昼にはピッツア・ナポリアーナ。宿のパソコンでミクシィにログインしたらたくさんの方からコメントを頂いていたがお返事を書く余裕がない。申し訳ございません。パケット代の心配をしてくださった方もいたのでこれについてだけ。旅が終わって見たらすごい額の請求があるでしょう。覚悟の上です。リアルタイムで日記を自費出版しているつもりです。これは旅行の大きな目的のひとつでそのために海外対応の携帯にしました。昼下がり。明日の長旅に備えてのんびり過ごしています。写真は宿の部屋。

2月15日



スーパーでシャンプーやら歯磨き粉やらを買ってきてやっと全身を洗う。機内に液体類の持ち込みが制限されているので全て現地調達にした。朝はバスルームが一杯だったのだ。さっぱりしたのでサンタ・マリア・デッリアンジェリ教会に行く。黴の匂いがした。いやあれは降り積もった時間の匂いだったのか。宿のパソコンはいつも一杯なのでネットカフェに寄る。やはりミクシィにログインしてしまう。マイミクさんの日記を読みたいが全ては無理。社交辞令を言わないという青年の日記のみあらがいがたく読んでしまう。宿へ戻ると新しいルームメイト。メキシコからきた二人の少女。すでに日本食が恋しい。夜は中華にしようか。明日はイタリアのさらに南へ向かう。電車が予定通り動くことはあきらめた。昨日空港からテルミニまで乗ったレオナルド・エクスプレスはガイドブックによれば30分で着くとのことだったが一時間かかった。やれやれ。



同室の男の子二名と夕食。二人とも大学生。若い男子をナンパしに旅に出た気分だ。そのとき事件はおきた。イタリア人が男の子に声をかける。なんと彼のパスポートを持っている。落ちていたから拾ったと陽気に話しイタリア人は去っていく。男の子はいつパスポートを落としたのか釈然としない様子。別のイタリア人がきてさっきのはスリだよ、と忠告してくれた。すったはいいが財布ではなかったので返してきたらしい。鮮やかな手口で誰も気が付かなかった。私は貴重品

は全て洋服の下、体に巻いているがそれでも危ないような気がしてきた。部屋に帰ると日本の女子大生が新しい仲間に。会話が盛り上がり楽しかった。コンゴからの黒人男性も加わる。ブラジル人カップルはあいかわらずいちゃついている。夕食に食べたラビオリはおいしかった。さて明日は最も治安の悪い南イタリアへ。新しいルームメイトのその日本のお嬢さん曰く危険だと聞いていたバルセロナはそんなに危険な雰囲気ではなかったとのこと。しかし目の前でスリを見たのでなんとなく不安。そんな夜でした。明日以降は田舎に行くので携帯の電波が悪く更新が滞るかもしれません。



テルミニ駅にて。バーリへの電車待ち。安いローカル線なので食堂車などはないとのこと。ミネラルウォーターとハムとチーズのバケットサンドを買う。チケットの刻印があっているのか不安で後ろの青年に尋ねたらにっこりOKサイン。朝は大学生のお嬢さんと食べた。ではそろそろ電車に乗ります。



車窓を伝う雨雫。今日のイタリアは雨。低く雨雲が垂れ込めている。車掌さんが切符の拝見にきた。年輩の方でとても丁寧な仕事ぶり。須賀敦子の義父が鉄道員だったことを思う。私をイタリアへ誘った須賀敦子。全集文庫版が発売されたので第一巻を旅行鞆に入れるつもりだった。ところが私はそうしなかった。きっと須賀の本を読んでいたら私は自分の言葉で書かないから。し



かし物真似ではなくて私は須賀の精神をなぞってしまうのだ。恭しい模倣。憧れはついに私を二度目のイタリアへ誘った。そのあと行くのがやはり須賀の学んだパリという符合。ところで車内に修道女が一人いらっしゃる。古風な修道服の優しい黒。須賀の魂について思いをはせる。

結構高い山並みが見える。どこか日本に似た風景。果樹園が広がる。何の実がなるのだろうか。湿地も続く。水溜まりに弱々しい太陽が反射する。山並みに寄り添うように建ちならぶ粗末な家。南イタリアは決して豊かとは言えないのだ。日本人だらけだったローマを離れると東洋人は私だけ。みな少し好奇の目でこちらを見るような。あと一時間くらいで到着予定。

2月16日

---



電車がバーリに近付くにつれ明らかに風景の色のトーンが変わる。南の日射し。噂通りにアーモンドの花が咲き乱れ、地面にも蛍光色のオレンジの花がびっしり咲いている！南だ。駅を降りるとなまあたたかい温気。駅前には椰子の木。さてガイドブックに載っている駅前のホテルに無事チェックイン。明日向かうアルベロベッロへの私鉄の時刻表をメモしてきた。帰りに水を買って今ホテル。一休みしてから夕食。部屋にテレビがあるー。



目がさめると遠い雨の音。いつまでも聞いていたくてまどろむ。夜鳴鳥が時を告げ私はふかぶかと眠ったことを知る。お腹も減っていない。果てしない疲労感。近所でピッツアを食べたらすごくおいしくて食欲ないと言いつつ平らげる。安宿だが熱いシャワーが嬉しい。さっぱり着替えてベッドの中。夢にみたい人のことを考える。遠くから思えばそれは馬鹿げた冗談だと思えなくなる。しかしピッツアのトマトがおそろしく甘くて。イタリアの南の夜に誰か一人を思いつめるのは似合わない。甘い夢を見るのだ。おやすみ。

またもや時差ボケで早朝目を覚ます。日本は昼頃だな。ちゃんと眠れたけれど、一晩中だったのか明け方だからか宿の中が騒がしい。野太いイタリア語が響く。エレベーターのひっきりなしの稼働音。このペンショナーは1台のエレベーターを軸とした不思議な回廊だ。吹き抜けの中央部を動くのが不思議なくらい老朽化したエレベーターがぎしぎし上下する。そのまわりをうずたかく個室が取り囲む。安宿に泊まる代わりに贅沢な食事をする予定だったが昨夜などは疲れてレストランに行く元気はなくピッツェリアでピッツア2ユーロ、アクア1ユーロという貧しい夕食となった。せっかくの港街なので新鮮な魚介類が食べたかったよ。今日の目標。打倒時差ボケのため夕方から眠らない。ちょっといい食事にありつく。みなさまコメントありがとうございます！ちゃんとたまに読んでいます。帰国したらまとめてお返事書かせていただきます。ではまた。

わたしを離さないで。カズオ・イシグロのこの作品のタイトルを思い浮かべて涙ぐむ。物語の濃密な空虚さが悲しいのか、我が身が悲しいのか区別がつかない。わたしを離さないで。今、念願の旅に出ているし、とてもハッピーな気分なのに、私は叫び続けている。離さないで、と。悲しいのは離されることではなくて、私は誰の腕の中にもいないということ。誰のものでもないことはとても自由なのにひりひりするくらい孤独だ。あなたを所有し、所有されたいと願った瞬間に私は気がふれるだろう。だのに私は彼にとっても会いたいと願っている。会うときっと好きになる。誰でもよいわけではない。あなたでないと駄目なのだ。でも好きになることはとても悲しい。さあそろそろ出かける支度をしよう。朝食を食べるのだ。とびきりおいしい朝食を！・・・こんなに思いつめるから逃げられるんでしょうね。あはは。一人旅って何か書くのにもってこいの時間だなあ。



早朝アルベロベッコに到着。トンガリ屋根に白い壁。メルヘン絵本も真っ青の夢の国。酒とバスケットが生き甲斐の私であるがこのメルヘンの国に憧れて南へきたと今告白する。。朝から街をくまなく探検。途中で夢のように可愛いレジデンスを発見するがきっと人気が高くて今更予約はとれまいと諦める。しばらく行くとレジデンスの斡旋会社のようなものがあつたので思いきって入る。シンゴラで57ユーロの部屋があると言われた。その程度の値段ではあまり期待はできないがとりあえず部屋を見せてもらうことに。するとなんとさっき諦めたレジデンスだった。即決で3泊

予約。てんがいつきのベッドにキッチン、バスルームにリビング。トンガリ屋根をまるまる占領！ウエルカムドリンクのシャンパンを飲みつつこれを書いています。イッカイのお針子には文不相応甚だしいような気がするけれど、きっとこの街を愛した返礼を神様が。酔っ払い。まだ午前10時。



ビッラを2杯とポモドーロのスパゲッティ。軽く酔って帰宅し再度(さっきもやった)部屋の鍵があかなくてガチャガチャやっていると大家さんのおばさんが笑いながら出てきて助けてくれる。グラーツェ。そう言って抱きよると頬にキスしてくれた。街には日本人観光客があふれる時間かと思ったが、日本人どころか地元の人もほとんど見掛けないくらいひっそりとしている。私は朝、sud-est線に乗って時空のひずみを飛び越えて、もうひとつのおとぎ話の街へ紛れ込んだのではないか。いくつもの枝分かれする瞬間の選択を、私たちの気の遠くなるような太古からの遺伝子でよりすぐっていることについて考えながら飲んだビッラは少し苦かった。

2月17日

---



夕方から雨。インターネットカフェのオープンが四時半からなので店の前で待つが開かない。道ゆく人が何らかの声をかけてくれる。もう少し待つと開くよとか言ってくれているらしい。人々と話しているだけで楽しくて30分も待つが開かなかった。その間道ゆく車も観察。欧州の外車ばかり。外国だから当たり前だけど。うちの父はフォルクスワーゲンに乗って得意になっているがこの街ではポンコツといえばワーゲンだった。あと大衆車だと思ったのはオペルとプジョー。本場アルファロメオはこちらでも高級車のよう。日本車は滅多に見ない。トヨタが世界を席卷しているのは嘘だ！1台三菱を見たがすごい高級車だった。こちらでは日本車が高級車なのか？ワーゲンは絶対に車検に通ってないだろうという悲惨な車ばかりだった。大抵ルポ。トゥワレグとかは1台も走っていない。さて。別のインターネットカフェを見つけて入るがえらい古いパソコンで日本語が表示されなかった。諦めて出る。お昼はこってりしたパスタだったのでお腹がすかない。シャンパンが残っ

ているのを思いだし、パンとオリーブの瓶詰とマスカルポーネチーズを買ってきて一人酒宴中。今日は昼寝をしていない。時差ボケがなおる予感！

例によって時差ボケです。書くことから逃れられない。まるで取材をしながら旅をしているようだと思う。それが楽しくてならない。あながち昔の職業は不向きではなかったということか。帰ってまとめて書けば無料で書ける。なのにメールでの更新1通につき100円はかけることに意味はあるのか？しかしリアルタイムでインターネットにアップすると断然楽しい。意味などないのかも。遊びとは無意味なものだってホイジンガあたりが言ってなかったっけか。人に読んでもらう快感。これは何に由来するものなのか。自己顕示欲が強いことを恥ずかしいとは思わない。ねえ、聞いて？ってところから人間関係は始まるから。



公園のベンチにて。気持ちよく晴れた朝。昨日行ったバールに朝ごはんを。昨日は無愛想だったお兄さんがいきなり親しげにカプチーノ？と聞いてくれる。どうも2回目以降が客とみなされるらしい。昨日は無愛想にカカオをふりかけるか聞かれたが今朝は何も言わなくてもカカオをふりかけてくれる。しかし英語が全く話せないお兄さん。怒涛のイタリア語で話しかけてくる。みぶりでぶりでコミュニケーション。そのうち盛り上がってジャポネは団体でうろうろするとお兄さんが笑う。やばい。私も少し前まで団体ジャポネだったと思いつつ調子を合わせて笑う。さらにジャポネは写真ばかり撮るとも大笑い。それも私のことじゃんと思いつつまた調子を合わせて笑う私。意思が弱いのだ。このあとナポリに行くと言ったらスリに気をつけてと言われた。私がぬいで置いておいた帽子を盗る真似をしてスリのジェスチャー。言葉の壁を乗り越える楽しさ！その後まさに団体の日本人観光客にでくわす。みなに「ようこそさん？」と声をかけられ？マーク。なんでもこの街に嫁いだ日本人ようこそさんという方に間違えられたらしい。私みたいに黒髪の超ロングなのだとか。ふむ。私もようこそさんに会ってみたいぞ。



小さな街なのでそうそう散歩する場所もない。というわけで昼からシャンパン。マイミクの親愛なるまきさんが最近休日は昼からワインと仰っていたのを真似したかったのだ。なにせ私はひとつきのバカンツィアの最中。寄せて頂いたコメントの中にレスを書きたいものがあるのに、何とかけばよいのか途方に暮れている。肝心なとき、私のおしゃべりな口が閉ざしてしまう。この旅

の間、ずっと彼への返事を思い巡らすだろう。教会の鐘が時を告げている。このレジデンスには裏庭がある。梨木香歩さんの「裏庭」を思い出す。あの本で梨木さんに会った。最初は馴染めないと思ったのに今ではよく読み返す。思想を持つ人間は素晴らしいが、私はさらに行動をあわせ持つ人間を愛する。梨木さんは両方をバランスよく持つ稀な女性。憧れる。レジデンスのレセプションの女性とのカタコト会話。「ローマと比べてここはピッコロだから」。ピッコロ！小さなという意味のイタリア語なのね。彼女はとても愛らしい顔立ちをしている。しかし外出するときはぴたっとしたニットキャップを被り、巨大なサングラスで顔を覆う。サイボーグみたい。イスラムの女性がヘジャブに覆われているのは全く逆の意味で彼女は武装するのか。日本女性が無邪気に太股を露に街をかつ歩することを思う。日本女性が迂闊なのではない。あの社会に通低するミルク臭い幼児性。私もまた日本の子供の一人として考えるのだ。子供なりに。



おいしいものをたくさん食べにきたはずなのに疲れたといっでは手軽に済ませている。今日の昼は一念発起、ちゃんとしたレストランに突撃というもくろみ。ずっとノーメイクで過ごしてきたが、ちゃんとお化粧もした。洋服はボロいがバックパッカーだからそのへんは許してもらおう。さて店に入る。前菜もプリモもセコンドも頼んだのは初めてだ。パスタが運ばれ食べているとウェイターさんがチーズをふりかけにやってきた。丁寧だわ。感動する。食べ続けていると再びチーズをかけにきてくれる。うむ、かなりチーズな味になったがまあいいか。と食べているとまた近付いてくる。今度こそはチーズは断ろうと思っていたら、すごく丁寧な口調で、英語で今晚飲みにいきませんかと誘われたのだった。うわ。イタリア初ナンパだわ。ガイドブックにはイタリア人は女の子を見ればナンパすると書いてあるのにそれまで一度もされなかった。きっとノーメイクでうろついていたせいね！すごく嬉しかったけれど丁重にお断りした。するとその方、私の自惚れかも知らぬが見るからに気を落と

してがっかりしてしまった。こっちも気まずくて食べている気がしないのであった。イタリア男性、意外にもナイーブ。あまりに居心地悪いからやっぱ飲みにいこうぜ！な？だからしょげると肩を叩きにいきたくなかったが堪えた。そういえばようこさんの正体が分かった。陽子の店という土産物屋があったが生憎陽子さんは不在だった。陽子さんは旦那のイタリア人に誘われてOKしたんだな。陽子さんのあとに続きたかったが私には勇気がありませんでした。

[続きはこちらからどうぞ~!!](#)